



広沢一郎 名古屋市長 インタビュー

「アジア・アジアパラ大会の成功に注力」。広沢一郎名古屋市長は今秋、地元で開催される大規模な国際スポーツ大会への熱意を語るとともに、その先にある名古屋の都市としてのレベルアップを視野に入れている。一昨年11月に就任して以来自身初めてとなる本格予算案を組んだ市長は、道府県から市への税源移譲を含む特別自治市実現にも意欲を見せる。広沢市長に地方都市からの脱皮、「名古屋主権」への思いを聞いた。

ビッグイベントを成功させることで 名古屋の格をレベルアップ

―就任2年目です。本年の抱負をお聞かせください。

広沢一郎名古屋市長 まず、今年は秋の大型イベント、アジア・アジアパラ競技大会を成功に導くことが大事だと考えています。名古屋で初めての大型国際総合スポーツ大会ですからね。また、私が本格的な予算を一から組むのは初めてですので、コストを考えながら他の事業も着実に進めたいと思っています。

―当初予算に「広沢カラー」が出ますね。

広沢市長 そうですね。と言ってもアジア・アジアパラ大会に向けて相当な経費が必要ですし、政策的にも経済波及効果などを含めていい影響を与えると信じていますので、大会は何をおいても、という位置づけですね。

―大会の意義は。

広沢市長 年明けから国際情勢はいろいろと動きがあり、世界が分断される懸念もあります。その中でスポーツは皆が一つになれる大きな効果があります。広いアジアの45の国と地域から代表選手が一堂に集まることに様々な意義があります。大応援団も各国から来ます。名古屋を見てその魅力を情報発信していただければ観光面での効果は大きいですよ。また、大規模な大会を開催できる都市、名古屋の認識も広がり、来年5月にはアジア開発銀行年次総会も開催予

定で、国際的な知名度、名古屋の格が一段と上がると期待しています。

―アジア・アジアパラ大会の準備は順調ですか。課題は。

広沢市長 はい。ハード面の整備は順調で、これから機運を醸成していきます。チケット販売などソフト面や警備の課題などを詰める段階で、すべて計画通りです。大会が近づくと競技団体などから課題が示される可能性はありますが、長期間準備をしてきたので、乗り越えられると考えています。

―昨年は減税額調整など難しい対応も。

広沢市長 ここ数年はアジア・アジアパラ大会に相当な資源を集中しなければなりません。そして建設費、人件費などが予定以上に値上がりしたため、予算措置が大変で、減税幅を縮小せざるを得ませんでした。

―ほかの課題については。

広沢市長 長期的にはやはり、人口減少が大きな課題ですね。名古屋だけの問題ではありませんが、都市の力を落とさないように努力することが重要です。名古屋市は現在の政令指定都市からさらに上の特別自治市（略称：特別市）を目指して活動しており、実現に期待しています。

―特別市では何がどう変わりますか。